

「2017年タイ・チュラーロンコーン大学サマープログラム参加報告書」

京都大学文学部4年 江上 花帆

今回のプログラムでは、約20時間のタイ語講座のほか、タイの歴史や文化についての授業、チュラーロンコーン大学の学生との共同発表、日本語クラスでの日本紹介が主な教室内での活動でした。その他、アユタヤでの寺院見学やアジアティークでのタイダンスの鑑賞などの際にも、すべて先生に解説していただいたため、学外でもタイについて理解を深める機会がたくさんありました。プログラム開始当初、タイ語が難しく、皆で苦戦していましたが、授業を受けるたびに単語・表現をたくさん覚え、日に日に街で聞こえるタイ語も増え、実際のタイ語使用を実践してみることができたのは何よりも貴重な経験でした。

共同発表で同じ班になった学生の皆様には本当にお世話になりました。何度も一緒に食事もしましたし、制服を買うお手伝いをしていただきました。様々なところへも連れて行っていただきました。もちろんたくさんのお話や時には議論もしました。タイのことをたくさん教えていただきましたし、私も日本のことをたくさんお伝えしました。共同発表の授業でもお互いに関心を持っていることをたくさん話せたため、とても仲良くなることができました。最後には、タイの学生の皆さまやそのお母さまからたくさんのおみやげや手作りのアルバムをもらって、さらにタイ語の名前をつけてもらって、たくさん一緒に写真を撮って、いよいよ帰国するのが寂しくなりました。自身の勉強が忙しい中、私たちに温かくに接してくれた学生の皆さまには本当に感謝しています。

タイの皆さまの優しさのほかに驚いたことは、タイは、日本のキャラクター、日本食、日本のポップカルチャー、日本語の語彙など、日本のものにあふれているということでした。タイでは日本語を学ぶのが人気と聞いて驚いていましたが、現地に行ってみて納得しました。これは歴史の授業で聞いたことですが、タイは昔からインドや中国、オランダなど身近になった国の影響を何でも取り込んできたと先生はおっしゃっていました。私が中学高校時代に打ち込んでいた百人一首（かるた）も、タイでも人気になっていて、友達になった学生の皆さまも取り組んでいました。これほどタイには日本があふれている一方、日本ではタイに対する関心は一般的には非常に薄いという非対称な印象を受けます。いつかビジネスだけでなく、日本とタイの文化的な交流がもっと活発になる日が来ることを願います。

私は来年からタイのスワンナプーム空港を施工した建設会社で働く予定です。今回のタイ滞在の経験で、タイのことが大好きになり、タイと日本、両方のために働くことができたらいいと思うようになりました。タイでの勤務を許可されるには、高いハードルを越える必要がありますが、いつか私もタイで働けるよう、今後も、英語もタイ語も学び続けようと思います。何よりも、タイの学生の、日本語などの勉強、スポーツ、友達との関係、私たち日本人とのコミュニケーション、何事にも一生懸命取り組む姿は特に印象に残っており、私を励ましてくれるものでした。あの姿を一番のお土産に、私もいくつになっても、前向きに様々なことに挑戦できる、幅が広く、温かい人でありたいと思います。

とにかく、私にとって刺激的な2週間でした。知らない文化を知り、人の温かさに触れ、このような貴重な機会をいただいたことを、本当に感謝しています。支援してくださった京都大学の先生方や、国際交流課の方々、チュラーロンコーン大学のスタッフや先生方、学生の皆さまに心からお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。